

3月定例会

一般質問

3月定例会では15人の議員が市政に対する一般質問を行いました。



一般質問とは、議員が高山市政全般にわたり、事務執行の状況及び将来に対する方針などについて所信を質すとともに、報告、説明を求め疑問を質すものです。

QRコードから各議員の一般質問をご覧ください。配信は会議録が調製され次第終了します。(タブレット・スマートフォンに対応。通信料は別途発生します。)

能登半島地震を教訓とした危機管理について

未来
松山篤夫



問 消防庁は、能登半島地震による輪島朝市周辺の大火災は、屋内の電気に起因した可能性があるとの見方を示している。木造家屋の多い高山市内での出火を抑えるために、地震発生時に自動で通電を遮断する感震ブレーカーの設置補助に対する市の考えは。

答 大地震への備えとして感震ブレーカーの普及対策は重要である。関心も高まっているので、啓発チラシや動画の作成なども検討し、感震ブレーカー設置の普及強化に努める。補助については、国や他自治体の取組状況などを把握しつつ、補助の必要性やあり方を研究する。

地域医療について

未来
車戸明良



問 高山赤十字病院は老朽化の課題があり、新病院の建設を各方面から期待されているが、進んでいるのか。市としての関りは。

答 令和4年度に新病院建設協議会が立ち上げられ、市も参加し意見を述べてきた。計4回開催された新病院建設協議会の報告書が、令和5年9月に高山赤十字病院運営協議会に提出され、これを基に病院の中で検討が進められている。

問 丹生川診療所は、医師の体調不良で休診となっている。外来診療や在宅医療など重要な役割を担っているが、どう対処するのか。

答 地域の医療体制を守るため、欠かすことのできない診療所と考えており、医師の意向や状況を聞きながら、代診医の派遣など市として必要な支援を検討していく。また、在宅医療についても、今後必要な取組を検討していく。

おたふく風邪ワクチンへの助成について

新政たかやま
中村匠郎



問 こども未来部を新設し、安心して子育てができる環境の充実を目指す本市において、所得制限等を設けず幅広い方々が利用できるおたふくかぜワクチンへの助成を早期実現する考えは。

答 ワクチンを助成する方向であるが、具体的な方法について結論に至っていない状況である。まずは予防接種について十分理解した上で検討ができるよう、母子手帳交付時、お子さんが生まれた後、接種時期が近くなった段階での周知等、情報発信について工夫していく。